

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091601239		
法人名	社会福祉法人 平和の聖母		
事業所名	グループホームメゾンマリア		
所在地	福岡県久留米市津福本町字草場272-1 (電話)0942-35-8777		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果確定日	令和4年3月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所近隣にはグループ法人である社会医療法人や学校法人があり、サービス面のみならず、地域の社会資源として多様な面で連携している。立地面でも公共の交通機関や様々な店舗等が充実している。ケアの個別性に向け、全室に睡眠・呼吸等を随時把握できる見守りシステムを導入している。加えて、ICT化を進め、日常の記録等への円滑及び簡素化に繋げている。建物内部は温かみのある色合いで、中庭からは陽光が差し造りとしている。運営推進会議では、書面開催以外は毎回複数の家族の参加があり、様々な意見等を得られている。各ユニットの多目的室は、家族の面会等に活用できる。併設施設と非常災害時や食事面で連携することで、一つの事業所の枠に留まらないサービスを提供している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和4年2月4日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

近くに公共交通機関がある利便性のある住宅地の中に、2階建て2ユニットの事業所がある。近隣にはグループ法人である医療法人、学校法人もある、同法人のケアハウスが隣接しており、廊下で繋がり協力関係がとれている。接遇面では職員同士で意見が素直に言える関係があり、職員全体でサービスの向上に努めている。地域との関係性も良く、清掃活動へ利用者・職員で参加をして地域の方と挨拶を交わす機会を維持し、以前開催していたバザーやお祭り開催の問い合わせがある。また、地域の方から座り込んでいる高齢者がいると連絡があり、事業所利用者ではなかったが対応をすることもあった。地域の中で存在感がある事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	時間帯は異なるが、継続して職員が各自唱和している。合わせて、管理者等がグループ法人を通して、理念の実践に通ずる研修等に参加している。その内容を事業所に浸透させ、一人ひとりを尊重したケアと充実した生活の提供に繋げている。	法人としての理念・基本方針、事業所目標がある。社協、包括支援センターとの協働により、地域の資源としての役割を担っている。職員は利用者が自分の力を発揮できるように一人ひとりの尊厳を大切に、笑顔をもって気配りをしながら「あなたに会えてよかった」と思われる処遇を目指し、日々、理念の実現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで積極的にボランティアを受け入れ、地域を交えたイベントを定期的を実施していたが、コロナウイルスの影響により実践できていない。地域の保育園へは、オンラインを活用しての交流を続けている。	事業所で行うイベント情報を地域へ回覧してもらっている。ほとんどの地域活動が中止されているが、月1回のクリーンパートナー（清掃活動）に利用者とともに参加をしている。コロナ禍のため地域の方の訪問はないが相談を受けることがある。看護学生とのオンラインによる交流もあり、地域との関係を維持している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協働で、地域住民向けに認知症に関するおしゃべり会を規模を縮小して実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規模と時間を縮小して実施する中で、有意義な機会となるよう、議案内容や進行方法を工夫し、意見、要望等の促進に繋げている。	運営推進会議は2か月に1回開催している、感染状況により参加人数の制限、時間短縮をして実施か文書を郵送して意見を頂くようにしている。会議ではサービスの利用状況（行事・日中の活動等）評価への取り組み、事故報告を行い意見をもらっている。行事についての助言を踏まえて外出行事を実施した事もある。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営及びサービス提供に係る内容は、都度確認することで、適正なサービス提供に繋がっている。運営推進会議の場でも助言があり、合わせて意見交換も行っている。	行政とは日頃より、加算要件の確認など運営に関する相談をしに窓口へ行き、顔の見える関係が作られている。包括支援センターからの依頼で、認知症についての話を地域住民向けに行う、介護者のための「おしゃべりの会」を開催したり、認知症サポーター養成講座の講師をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当職員を配置し、規程の変更を始め、指針の更新、委員会による月毎の発生状況の有無を確認している。意識と知識の向上を図れるよう、研修については複数回実施している。環境面では、利用者の安全面及び防犯面にも配慮した上で、メイン玄関の常時施錠は避け、構造上も閉塞感も排除できるような造りとしている。	事業所が車道に面している事もあり、朝の清掃時間や安全面が確保される時間に開錠されている。利用者が動き始める時や不安が大きくなるようなタイミングを把握しており、見守り付き添いを実施している。近隣の店舗等にも声掛けや連絡を依頼して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回以上は発生状況等の確認を進め、状況を見ながら外部講師を招いての研修を実施している。防止への方策として、接遇面での意識向上を図っており、その研修についても内部外部問わず実施参加を促進することで、日常からの言葉遣いにも気を配っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解が十分ではないため、外部講師による研修を実施予定である。事業所全体を通して、制度内容に関する知識が少ないため、研修を通して、制度理解を積み重ねると共に、その動向も把握できるよう参考資料やリーフレットを活用している。	制度については契約時、サービス担当者会議時など心配事が聞かれた時に説明をしている。職員も相談を受けた時は制度の紹介を行い、不明な点があれば上司に相談をして制度へつながるような支援をしている。全職員は外部のオンライン研修の伝達研修を受けて権利擁護や制度に関することを学ぶ機会がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書について、しっかりと丁寧に説明をしながら、項目毎に不明な点等について確認している。内容の変更については、必ず説明の上随時覚書を取り交わすこととしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりを通して、言語非言語問わず利用者からの要望や意見をケアに反映させている。家族からは面会時や運営推進会議等での把握に努め、入口に意見箱を設置している。第三者委員や市町村窓口、運営適正化委員会等の外部機関についての説明を行い、第三者委員においては、定期的に助言を得る機会を設けている。	1日の中で利用者とゆっくり話ができる時に生活について思いや希望を聴き取り、意思表示の難しい方には選択肢を出して選んでもらっている。食事に関して希望があった時は、食べたいものを昼食に提供するなど意見を運営に反映させている。家族からの意見についても迅速な対応を行い、その結果を家族へ返し、運営推進会議で報告を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員面談や会議及びミーティング等を通して意見を募り、検討を重ねた上で積極的に業務に反映させている。利用者目線での柔軟な発想を取り入れることで、更なる意見の活発化に繋げている。	職員はユニット会議、ショートミーティング等意見を伝える事ができる。施設長・主任・法人管理者など年1回の個別面談を行っている。日頃から意見を言いやすいよう関係づくりに努めており、職員の提案で介護負担軽減や利用者の心身状態に合わせた福祉用具の購入、勤務時間の調整なども行われている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションアップに向けて、円滑なコミュニケーション空間の構築に努めている。各規則規程の見直しも適宜実行し、キャリアパス規程をもとに昇給昇格も実施している。退職金制度と合わせて所得補償保険にも加入し、将来的な部分も手厚くすることで、就業環境の向上の一つとしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、経験の有無も問わず、意欲や姿勢を重視し、個性や能力を發揮できるような雰囲気作りに取り組んでいる。役職者についても同様に幅広い年齢層や性別を問わず配置することで、全職員が目標や希望を持続できる組織風土の醸成に繋がっている。	採用に関しては資格の有無にかかわらずその人自身の介護に対する姿勢や意欲を重視している。入職後は新人教育があり、定年後の再雇用もある。資格取得についても主任から声掛けを行い受講しやすい環境がある。勤務時間の相談等もでき、それぞれのやりがいをもって仕事に臨めるよう環境作りに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にも通じるため、倫理観を始め専門職としての責務や姿勢について定期的に学ぶ機会を設けている。随時掲示物や文書等を活用し啓発に努め、拠点単位でも情報共有を図っている。	利用者のみならず職員の人権尊重ができるように法人全体の研修、外部研修、伝達研修を行っている。グループホーム内でも人権に関するテキスト、資料を職員へ回覧を行うなど人権教育について学ぶ機会を設けている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は研修プログラムに沿って実施している。入職後は様々な内外の研修を通して徐々にスキルアップを図ると共に、必要に応じて他事業所への現場研修を組み入れることで、柔軟な視点の醸成に積んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス種別を問わず交流する必要があるが、現状は難しい状況のため、オンラインを活用した交流を試みて、徐々に再開していきたい。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やサービス事業者等の関係者から基本情報を収集した上で、初期の関わりを設けている。コミュニケーションを取る際には受容と共感を意識し、安心できる存在であることを感じ取れるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の雰囲気作りと職員像の構築を意識し、要望や希望を引き出せるように努めている。現状は直接顔を合わせたコミュニケーションが難しいが、可能な限り時間に余裕を持って対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等の関係者からの情報と本人の現状を照らし合わせながら対応している。併設事業の専門職にも助言等を求め、幅広い視点で様々な意向を捉えるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者に対する礼節の部分を重視した雰囲気作りに努めている。利用者の立場になるために、研修を始めミーティング等を通して、常に意識できる環境作りに努めている。その上で、声かけや活動内容を工夫し、互いに支え合っている関係性の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に制限を設けている中で、オンラインを活用して利用者との関わりが継続できるようにしている。本人に限らず、可能な限り家族の要望も実現することで、共同でのケアの提供に繋げている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続して外出や面会は制限しており、これまで通りの関係性を維持できていない。そのため、内部の取り組みを充実させ、満足度を図ることとしている・今後も工夫しながら実践していく。	年賀状やはがきの返信の手伝いや電話を取り持つ、クリスマスリース・除菌スプレーのプレゼントを一緒に作り、家族、知人へ送るなど馴染みの人や場について把握し、今までの関係が途切れないように支援を行っている。コロナ前であれば利用者の希望で実家近くへ行き話をすることや今までの思いでの場所へ行く事もあった。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで利用者同士の会話や活動のきっかけ作り、関係性の構築に繋げている。それにより個性を理解し合える場面も垣間見える。今後も関係性が深まるようサポートしていく。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もイベント等のお知らせや相談連絡がっており、必要に応じてフォローすることで関係性も継続している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の個々の心身状態を複数の職員の視点でアセスメントすることとしている。そこから、日常の会話や関わりを通して意向を汲み取り、ユニット内にて検討を重ねることで可能な限り実現に繋げている。	職員は日頃から利用者とのコミュニケーションを図り、意思疎通が困難な利用者は仕草や動きを観察している。家族へ聞き取りを行いながら職員同士で情報を共有し支援につなげている。夢活動と題して馴染みの場所への外出や卵焼き調理、孫の誕掛けをミシンで作成するなど利用者の意向を実践へと支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話や基本情報のみならず、自宅等で使用していた生活用品等を知ること、本人のこだわりや嗜好の把握に繋げている。生活環境の変化は不安感等を招きやすい。その際の心身状態も注意深く確認することとしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	単なる日常の経過ではなく、利用者の現状が最適であるかを常に疑問に持つ視点を意識している。安全面を過度に配慮するあまり、有する力が減退しないよう、他事業所の専門職との連携や検討を重ねている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を主に、本人と家族の意見意向を確認し、主治医等からの助言も組み合わせている。より客観的な計画作成に繋げている。計画作成者は全ユニットを通して1名のため、事業所でも随時検討し、他職種も作成に関わりながらの作成に努めている。	介護に対する課題など居室担当介護職員、ケアハウスの管理栄養士、医療関係者などから意見を聞き取って介護計画を作成している。介護計画書作成までの手順は確立され書類管理も細かく丁寧に行っている。職員は個人ファイルや介護ソフトで支援内容を確認し日々の支援に努めている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については専用のソフトを基本に利用者や事業所のカラーに合わせた内容に適宜変更し、ユニット毎に簡易的な共有ノートも設置活用することで、円滑な情報共有やケアの見直しに繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族双方の多様な希望を把握することとしている。限られた時間の中で、その実現に向けて時には併設施設のサポートも得ながら、柔軟に対応している。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オンラインを活用したイベントに参加している。様々なことが制限される中、実情を鑑みながら、施設側からも発信できるよう取り組みの更なる充実化を図る。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所が特定せずに、本人や家族の意向に沿って受診の支援をしている。心身状態により変更を要する場合は、事前に本人及び家族へ相談の上、移行することとしている。かかりつけ医には、随時連絡、相談をすることで、本人の状態を共有できるよう努めている。	入居後も利用者・家族の意向に沿ったかかりつけ医が継続できる。全身状態によって往診が必要になればドクターを紹介したりと柔軟な対応で家族をサポートしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職、連携する訪問看護ステーションとも、定期的な体調確認と併せて、日中夜間問わず相談連絡が取れる体制となっており、常に最新の情報を共有できている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループ法人が協力医療機関となっており、総合病院でもあるため主とした入院機関となっている。入退院時以外でも日常から適宜MSW等との情報交換等を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事例を交えながら説明し、意向確認している。利用開始から心身状態が変化した際は、随時再確認し、その方らしい最期の支援に繋げている。家族支援にも適切に提供できるよう、関わり方にも配慮しながら、かかりつけ医や訪問看護とも連携している。	事業所の終末期に対する方針が明確化され看取り介護の実績がある。利用者の状態変化時に医療関係者を交え終末期の対応について方向性等について随時話し合っている。職員の不安が軽減されるよう緊急時対応の研修や話し合いを繰り返し、マニュアル化も行っている。家族の付き添い時には居室以外の部屋やソファベッドも用意されている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎疾患等によっては突発的に発生することもあるため、マニュアルを整備し、定期的に訓練及び研修を実施している。職員によってスキルに差があるため、実践に繋がる研修等を繰り返し、全体的な底上げに繋げている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時のマニュアルや整備や併設施設と協働での昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路も複数設け、安全で確実な避難及びその誘導に繋げている。昨今頻発する、風水害時対策として、排水ポンプによる訓練も実施している。	ハザードマップでは水害対象区域ではないが、火災による総合訓練のみならず、土嚢づくりやポンプで水を吸い出すなどBCP想定訓練も実施している。備蓄は事業所内倉庫と併設のケアハウスに分けて備えている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳保持の一つとして、言葉使いを始めとした接遇面を重視している。入職時や定期的な職員研修を通してその意識を高め、いかなる時も落ち着いた言動を保てるよう努めている。普段の声掛けも、利用者の状況に応じて、不快にならないよう気を配っている。	個人情報保護推進委員会において守秘義務や個人のプライバシーに関することが話し合われる。排泄介助や入浴、更衣時のプライバシー、トイレ誘導に対する声の掛け方など具体的な内容が実践されている。日頃から接遇に対する意識が高く、事業所方針が職員に浸透している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で選択や決定ができるよう、衣類や食事、入浴等に関する要望を確認することとしている。それら全ての把握には至っていないため、潜在的ニーズと合わせて引き出せるよう、普段の関わりから言葉や表情からも把握する必要がある。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定されたスケジュールにこだわるよりも、本人の表情や活気等の変化を察知し、その時その時に沿った一日を過ごせるように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の衣類については本人が選ぶことで好きなものを好きな時に着用できるよう心掛けているが、十分とは言えない。希望に応じ訪問理美容も依頼している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り調理等に参加できるようキッチンを工夫し、身体状態に合わせて準備や片付けに取り組んでいる。準備の際にはエプロン着用する等メリハリを付け、食事も食材や色合い、食器にも気を配っている。	食事は併設するケアハウスから運ばれるが利用者と職員と一緒にキッチンで衛生管理のもと配膳や後片付けを行っている。献立は管理栄養士が管理しているが、利用者の意向があれば献立に採用される。行事食や各国の料理、手作りのおやつなどバラエティー豊かである。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の心身状態によって食事、水分摂取量も変動するため、摂取状況は毎回記録している。必要に応じ併設施設の管理栄養士を始め主治医と協力し、経口補水液の提供や栄養補助食品を始め食事形態も柔軟に対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前の口腔ケア、義歯洗浄を徹底し口腔環境の清潔保持に繋げている。虫歯や義歯の不具合による不快感は食欲低下等を招くため、協力歯科機関との連携をもとに、口腔環境の維持向上に繋げている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することで、声掛けのタイミングやその方法も個別に実施している。様々な心身状態の中で、本人の不快感や負担も軽減できるよう、トイレの設置場所や数、設備面も充実させている。	職員は利用者の排泄のサインを把握し、さりげなく支援している。入居後に、紙パンツから布パンツへ変更できた実績あり。できる限りトイレで排泄できるように自立に向けた支援を行っている。排便に関してもかかりつけ医との連携で便秘にならないよう努めている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による不快感や苦痛は生活意欲の低下に繋がるため、チェック表を用いて随時状態確認を行っている。水分摂取や食事メニュー、適度な運動を取り入れることで、自然な排便に繋がるよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間には余裕を持たせることで、ゆっくりとくつろげるようにしている。個別のシャワールームやシャンプー台を設置しており、気分や要望に合わせた提供が可能となっている。身体状態に合わせて、福祉機器等も活用することで、安全面にも考慮した入浴を提供している。	浴室は毎日準備され、利用者好みの入浴剤やシャンプーを使用し、季節的にゆず湯なども実施している。湯上り時は化粧に対する支援もあり、看取り期においても全身状態に配慮して入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中には適度な休息を組み入れながら、趣味活動を取り入れている。長時間の休息は夜間睡眠の妨げに繋がるため、心身状態と日々の変化に注意しながら、声掛けを工夫することで、休息と安眠に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法用量や留意点を把握できるよう、全体で薬の説明書を確認している。セット段階と別に服用前には声出し確認をしている。服薬後の体調確認についても適宜主治医や薬局等に相談連絡している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	屋内では食事の準備や環境整備、屋外では農作物等への水やり等を推進している。コミュニケーションの一つにもなり、普段とは異なる入居者の一面を垣間見ることができる。今後は趣味活動に目標を設け、より充実した時間に繋げる必要がある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	これまでのような、スーパーへの外出や外食は避けることとし、近隣への散歩や短時間でのドライブ等で気分転換を図りつつ、内部でのイベント実施が主となっている。	コロナ禍において日常的な外出は困難であるが、できる限り支援できる方法を模索し、ファストフードのドライブスルーや併設するケアハウスの自動販売機で買い物をしたり、浴室を利用することで温泉気分を味わえるよう支援した。今後も感染の状況を見ながら外出支援を再開する予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまでよりも頻度は減っているが、外出先での買い物が主となっている。状況を見ながら内容を拡充することで、お金を意識できる機会を増やす必要がある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の頻度は少なく、年賀状等の節目には発信できるようにしているが、特定のものではなく、気軽に作成できる取り組みを実施する必要がある。それに付随させてオンライン面会を通して、リアルタイムに面会できる機会を設けている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を中心にすることで、開放的で四季の移ろいを感じることができる。室内の採光バランスにも配慮した落ち着いた感じのあるデザインとしている。床暖房やくつろげるソファを設置し、快適な空間に繋げている。混乱を招かぬよう大掛かりな空間の変化は避け、住み慣れた居場所作りを意識している。	居室とフロアは中庭を中心に回廊型になっており、ガラス窓も多く日当たりがとても良い。フロアはロールカーテンで日光の調整を行い、床暖房で快適に過ごせる環境にある。フローリングの床は二重床で転倒などの衝撃を和らげる構造になっている。フロアの壁には職員手作りの干支（寅）の飾り物が暖かな雰囲気を作っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部はリビングとは別に多目的室を設け、独りの時間や面会が可能な状況であれば家族等との時間を気兼ねなく過ごせるようにしている。リビングでは、個々で楽しめる趣味活動や集団活動を取り組む場としている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には制限は設けず、それぞれが馴染みの物を居室内へ持ち込み、それらを身近に感じることで、落ち着ける空間作りに繋がっている。清掃もこまめに行い、24時間換気と合わせて生活感のある中においても、快適な居室空間を心掛けている。	使い慣れた家具、仏具、テレビ、家族写真、飾り物、DVD、携帯電話等が持ち込まれ、本人の意向に寄り添った居室空間で個性的に整えている。居室入口にクローゼットが備え付けてあるため、居室内スペースが確保できている。全室フローリングで日当たりもよく清掃が行き届いている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれが身体状態に沿って移動できるよう、建物全体への手すりの設置や共用部と居室間にベンチを設けている。専門的な機能維持向上への取り組みは難しいが、自分のペースで移動できる機会を設け、その際には安全面に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2／3くらいの		
				③利用者の1／3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が浸透するよう職員全体で唱和している。職員としての在るべき姿勢の意識向上に繋げ、日常のケアに活かせるようにしている。今後は必要に応じて理念に関する研修も実施する予定としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学生ボランティアを主に地域との関わりが多かったが、イベント等も含めて現状はほぼ難しい。そのため、オンラインを活用した交流に移行させることで、頻度は減ったものの、その機会は継続できている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協働で、地域住民を対象にした、認知症に関するおしゃべり会を小規模で継続して実施している。今後も継続するが、その方法や内容について検討する必要がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前と比べ参加人数は減少しており、時間と内容を縮小しながら実施している。ただし、単なる報告事項で終わらぬよう個々の意見を吸い上げながら、行事等の実施に活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業運営を進める中で疑問等がある場合には、その都度確認し、より適正なサービス提供に繋げている。運営推進会議では事業所の実情を直接報告できる機会にもなっており、必要に応じて助言等を求めることとしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修によって理解を深め、指針の整備や定期的な拠点単位での発生状況について確認している。日常生活の習慣自体が行動制限に繋がることを意識し、気づきを事業所全体で共有している。メイン玄関は施錠せず、構造も開放感を目的に常に日光や外気が差し込んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	月1回以上は発生状況等を確認している。時期に応じて外部から講師を招いた研修を実施している。防止に向けてまずは、接遇面の意識向上を図っており、その研修についても内部外部問わず実施参加を促進することで、日常からの言葉遣いにも気を配っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を活用する利用者もいるため、関係者とは常に連絡を取り合い支援している。全体的に制度内容に関する知識が少ないため、研修を通して、制度の理解を積み重ね、その動向も把握できるようリーフレット等を活用している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書について、しっかりと丁寧に説明をしながら、項目毎に不明な点等について確認している。内容の変更については、必ず説明の上随時覚書を取り交わすこととしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言語非言語問わず要望や意見を把握し、ケアに反映させている。家族からは面会時や運営推進会議等での把握に努め、入口に意見箱を設置している。第三者委員や市町村窓口、運営適正化委員会等の外部機関に関する説明も契約時に行い、第三者委員においては、定期的に助言を得る機会を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員面談を通して意見集約に繋げている。ユニットミーティングも併せて実施し、具体的なケアの在り方について検討できる機会を設けている。突発的なアイデアも意見として取り上げ、既存の枠に捉われない柔軟な発想を重視している。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションアップに向けて、各規則規程の見直しを適宜実行し、キャリアパス規程をもとに昇給昇格も実施している。退職金制度と合わせて所得補償保険にも加入し、将来的な部分も手厚くすることで、就業環境の安心感の一つとしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、意欲や姿勢を重視している。個性や能力を十分に発揮できる雰囲気作りに取り組み、役職者についても同様に幅広い年齢層や性別を問わず配置し、全職員が目標や希望を持続できる組織風土の醸成に繋げている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する研修を実施することで、意識が高まるようにしている。また、理念に通ずるため、法人単全体で取り組むべきこととし、随時掲示物や文書等での啓発を推進している。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員の研修プログラムの充実化を図り、常時実践している。様々な内外の研修を通して徐々にスキルアップを図ると共に、必要に応じて他事業所へ現場研修を実施している。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との直接的な交流の機会はほどできておらず、オンライン等を活用した短時間の形式のみとなっている。必要に応じて電話連絡にて情報交換している。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>基本情報を家族やサービス事業者等の関係者から収集した上で、初期の関わりの場を設けている。話を聴く姿勢、受容と共感を意識し、場合によっては複数回重ねることで、安心できる存在であることを感じ取れるようにしている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>常に変動する要望や希望を引き出せるよう、事例を挙げながら話しを進めることを意識している。また、小さな出来事も随時報告することで、信頼感や安心感に繋がるようにしている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な情報をもとに本人の状態を把握し、それをもとに本人や家族のニーズを汲み取っている。事業所内で共有することで、スムーズな支援展開に繋げている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で、礼節を重んじた雰囲気作りを意識している。本人の立場とはについても、研修やミーティング等を通して、常に意識できる環境作りに努めている。その上で、声かけや活動内容を工夫し、互いに支え合う関係性の構築に繋げている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限の中、オンラインや電話連絡を通して関係性の構築に努めている。また、状況に応じて制限を緩める等適宜対応することで、情報共有にも繋げている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他者との交流や移動が制限される中、再アセスメント通して生活歴や趣味等の把握を深めている。状況に応じて短時間での外出も実施し、馴染みの場所へ訪れる機会を設けている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡し役となり会話や活動のきっかけ作り、関係性の構築に繋げている。その中で個性を理解することで、気遣いの言葉や行動も垣間見える。今後も関係性を深める支援をすることで、支え合いの環境を構築する。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もイベント等のお知らせや別件で相談連絡がっており、必要に応じてフォローすることで関係性も継続している。今後もこれを維持することで、可能な限りサポートしていく。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	事業所目線とならないよう、個々の心身状態を複数の視点で把握している。そこから、日常の関わりを通して意向を汲み取り、ユニット内にて検討を重ね、積極的に実現に繋げている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話や基本情報と併せて、馴染みの生活用品等を知ること、本人のこだわりや暮らし方の把握に繋げている。生活環境の変化は不安感等を招きやすいため、その際の心身状態も注意深く確認している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々が自身のペースで思い思いに過ごせる環境作りに努めている。安全面にも配慮しながら、事業所主体とならない一日の流れを意識している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に利用者毎に担当者を配置し、本人及び家族の意見や意向を計画に反映させている。作成の過程における新たな気づきをもとに、個々の現状に沿った計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用のソフトをベースに本人や事業所のカラーに合わせた内容に適宜変更している。ユニット毎に簡易的な共有ノートを設置し活用することで、円滑な情報共有やケアの見直しに繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なことが制限される中、日常の関わりから個々の要望に対し、状況に応じてその実現に取り組んでいる。家族についても電話連絡や面会時において得られる意見等を参考に柔軟に取り組むこととしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの直接的な関わりは難しいため、オンライン等の機器を活用し、状況を見ながら段階的に取り組んでいきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はこれまで受診していた医療機関を継続できるよう本人の希望に沿うこととしている。かかりつけ医へは事前に相談、連絡体制を依頼することで、状況に応じて受診できるよう支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携する訪問看護ステーションと共通の記録を使用し、情報共有を図っている。また、受診の必要性を始め、常時相談できる体制となっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループ法人の社会医療法人が協力医療機関であるメリットを活かし、主とした入院機関になることを踏まえ、日常から研修やイベント等を通して、MSW等との交流や意見交換に取り組んでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に丁寧に説明しながら意向確認している。体調等の変化によって意向も変化することもあるため、随時関係職種を交えて再確認している。本人に限らず家族へも心情に配慮する必要がある、それと合わせて宿泊や休息できるスペースを確保している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルやAED、吸引器等の備品の整備とその使用方法の確認を適宜行い、発生時の適切な対応に応用している。定期的に普通救命講習を受講し、技術と意識を保持できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のマニュアルの整備や年複数回の定期的な訓練を実施し、災害発生時に備えている。避難経路も複数設け、設備も充実させている。地域との共同訓練は実施できていない、状況を見ながら再開していく。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対人援助職の基本として、接遇マナーを意識できるよう、定期的に研修を実施している。丁寧な言葉遣いが本人を尊重することと捉えながら、内容等によって声の大きさに配慮し、特にプライバシーの部分は、言葉を選びながら支援を徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりを通して、希望や意向を把握できるよう、表情や口調の変化も察知できるよう気を配っている。食事や入浴では、その都度意向を確認しながら、それに応じて支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のスケジュールを優先せず、一人ひとりの心身状況に合わせて希望を確認し、利用者のペースで一日を過ごせるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	極力本人が選んだものを着用できるようにしており、理美容についても定期的に本人や家族の要望を確認した上で訪問型を活用している。おしゃれを楽しむことで、生活意欲の向上に繋げている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はバランスと色合いにも気を配ったものとしている。盛り付けや食器のセッティングを一緒に行うことで役割の創出にも繋げている。イベントの他、定期的なメニューも利用者と協力して作る機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はその都度記録に残し共有している。必要に応じ管理栄養士へ相談し、状態に合わせて補助食品や食事形態の変更等を行っている。食事摂取のタイミングや時間帯も可能な限り希望に沿いながら提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前の口腔ケアを徹底し、口腔環境の清潔保持に繋げている。義歯の不具合や不快感は食欲低下等を招くため、随時協力歯科機関へ相談している。ブラッシングは磨きにくい部分をサポートしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけもその日の状態に合わせたタイミングで行っている。自立した排泄や不快感の軽減に向け、おむつ着用を基本とはせず、トイレの設置場所を工夫し、設備も充実させ、利用者職員双方の負担軽減に繋げている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による不快感は生活意欲の低下を招くため、チェック表をもとに随時確認している。適度な水分摂取、運動を取り入れながら、状況に応じて主治医や訪問看護に相談し、排泄に繋がるよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は時間的な余裕を保つことで、本人の希望に沿ったタイミングで提供している。シャワールームやシャンプー台を設置し、その時の要望に沿って提供している。皮膚状態に合わせた備品も揃え、機器も活用しながら浴槽に浸かれるようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠リスクを活用して睡眠覚醒状況や睡眠の質を把握することで、休息と活動にメリハリをつけている。ベッドや寝具類は、心地良くなるよう、落ち着いた色合いと感触の良いマットレスとしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は説明書にて作用等を確認している。誤薬は重篤な状態を招く危険性があるため、セット時や服用時には二重チェックを徹底している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活やイベントの準備等において、趣味活動の延長が役割となる機会を設けている。作品一つにしても、家族への贈り物等、目標を持って取り組むことができるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	制限される中でも、可能な限りドライブ等を通して気分転換に繋げている。これまでは物足りない日常になっているため、屋内で満足できるような内容を検討し継続して実践する必要がある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用開始時に個人の財布を準備してもらっているが、外出や買い物の頻度も減っているため、実際に触れる機会も減っている。今後徐々に機会を増やし、併設施設の売店もより活用していく。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡のみではなく、オンラインによるテレビ電話を活用している。利用者によっては戸惑いもあり、逆に混乱を招く要因にもなるため、個々に合わせて臨機応変に活用している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部では中庭を臨める構造としており、日光や吹き込む風を通して、四季を感じ取れる。共用部は床暖房を活用し、乾燥に配慮して温度調整している。室内の壁紙や家具類も、温かみのある色合いに統一している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等の共用部とは別に、多目的室を設け、独りの時間や家族等との時間に活用している。家具類も設置し、本棚も設置することで、ゆっくりと気兼ねなく過ごせるスペースとしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品は馴染みのものを持ち込んでもらっている。居室は基準以上の広さとし、車椅子等での移動もスムーズにできる。室内清掃もこまめに行い、24時間換気を活用している。出窓や室内外の収納も充実させ、必要なものが手に届きやすい造りとしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に手すりや福祉用具を多く設置することで、安全面に配慮している。共用部は二重床構造とし、転倒による衝撃の低減を図っている。トイレは居室内に無い分、共用部の設置数を増やし、設備も充実させて自立と安全性の向上に繋げている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	
				<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの	
				<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの	
				<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない	
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		<input type="radio"/>	①毎日ある	
				<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある	
				<input type="radio"/>	③たまにある	
				<input type="radio"/>	④ほとんどない	
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	
				<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが	
				<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	
				<input type="radio"/>	④ほとんどいない	
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	
				<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが	
				<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	
				<input type="radio"/>	④ほとんどいない	
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	
				<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが	
				<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	
				<input type="radio"/>	④ほとんどいない	
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	
				<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが	
				<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	
				<input type="radio"/>	④ほとんどいない	
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	
				<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが	
				<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	
				<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない	

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない